

令和7年12月22日(月)

あさひの日だまり

NO.29

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～児童会祭りがありました～

各委員会の工夫が光っていました



19日の午前中に児童会祭りがありました。6年生を中心に準備を重ねてきました。16日の火曜日には体育館に全校が集まって各委員会からのブースのPRがありました。どのブースも工夫されていて当日が待ち遠しくなりました。PRを見ていると子どもたちが自分たちで工夫して考えた跡がいたるところに見られ、子どもたちの想像力ってすごいなと感心させられました。

当日私は急な出張になってしまい子どもたちの活動の様子を見ることができなくてとても残念でした。教頭先生に様子をうかがうと「どのブースも本当に楽しそうで子どもたちの発想ってすごいですね」とお話ししてくださいまし

た。教頭先生に「お祭りの様子を少し教えていただけますか」とお願いし原稿をいただきましたので掲載させていただきます。

普段は7時40分に開場している昇降口前に、今日はだいぶ早くから6年生の姿がありました。「児童会祭りの準備をしたいので、少し早く入れてもらえませんか」と校務技師の野村先生に声をかけたそうです。そういう姿から、最上級生である6年生のこの行事にける熱意が伝わってきてうれしく思いました。

7時40分に昇降口を開けると、1年生の子が「教頭先生、児童会祭り楽しみ!」と満面の笑みで声をかけてくれました。この子の思いに答えられる一日になってほしいなと心から願いました。

8時ころ、校内を歩いていると、6年生の役員の子に「教頭先生、体育館ステージのひな壇を貸してもらえませんか。」と声をかけられました。「何に使うのだろう?」と思っていたら、それはボランティア委員会のアトラクション「つり」の釣り堀に使われていました。子どもたちの発想ってすごいなとびっくりさせられました。

8時40分に児童会祭りが始まり、全てのアトラクションを見て回りましたが、感心したことがあります。それは全てのアトラクションが昨年度のコピペでなく、リニューアル・アップグレードされていたことです。大人である私たちは行事を企画する際、ある程度昨年度のものをベースに少し修正を加えることが多いですが、今年の児童会祭りは「全校児童が楽しめるように」という思から、子どもたちがすべて一から企画・準備をした様子が伝わってきました。

美化委員会のアトラクション「人体パズル」では、人体に関するとてもおもしろく勉強になるクイズが出題されていました。その上、問題のレベルに合わせて「この問題は〇年生が教えてください。」といったように、1年生から6年生まで全員が参加できるよう工夫されていました。

なかよし委員会のアトラクション「ミッションすごろく」では、止まったマスで「好きな色は?」「好きなスポーツは?」といったミッションが出題され、すごろくを楽しみながら自然となかよし班のメンバー同士、お互いのことを知れる工夫がなされていました。

毎年行われている児童会祭りですが、子どもたちの主体性や発想力に驚かされた一日になりました。児童会祭りのスローガン「また来年もやりたいと思える児童会祭りにしよう!」の言葉通りに、全校児童が大満足した一日であったと思います。(教頭先生ありがとうございます)

～言葉や体で思いを表現する子どもたち～

自己表現って楽しいです

この写真を見て下さい



6年生が辰野町の未来について語り合っている様子です。当日は役場の担当者の方が数名来校しグループの話合いをリードしてくれました。「買い物を楽しめるようなお店が少ない」「ゴミが落ちているのにそのままになっている」「コインランドリーは多いのにお店が少ない」等ユニークな発想や町をよく見ていることに感心しました。

話し合いの始まりの時はなかなか盛り上がりになくてどうなることかと思いましたが、次第に活発な話し合いがどのグループでも展開していきました。それは話題が自分ごとになっていく様子でもありました。

そんな子どもたちの様子を見ていて私は「自分の意見を投げかけその反応を受け取る時間を心ゆくまで楽しんでいる」子どもたちの心の動きを感じました。

下の写真は2年生が平出保育園を訪問し、音楽会の時の発表をステージで披露しているところです。2年生は満面の笑みで体を動かしていま

した。その姿は本当に楽しそうでした。

園児の皆さんは2年生の演奏に引き込まれ身を乗り出して聞き入っていました。

私はその場面を傍らから見ながら、「楽しんでくれている園児の姿から手ごたえをもらって演技を思いっきり楽しんでいる」2年生の子どもたちの心の動きを感じました。

最期の写真は4年生のデイサービス施設訪問です。あさひの時間に練習している歌を披露しているところです。訪問した子の中の一人が「私のおじいちゃんも来ていたの。今はいないんだけどね。今日の聞かせてあげたかったな」としみじみ話してくれました。そんな子どもの心温まるつぶやきを聞くと、相手の



存在を大切にしながら自分の思いを自由に表現できて、その投げかけに応えがあると子どもたちは「楽しい」と感じるに違いないと思いました。

きっと子どもたちは相手からの反応を受け取ったとき自分の存在感を体と心で感じながら「自分は今ここに確かにいて価値ある存在になっている」と実感するのですね。

私は辰野東小学校の学校の目標を「楽しい学校」としてきました。どの子にも自分の心の内を思いっきり表現できる機会が訪れてくれることを切に願います。

今年1年間子どもたちにとって「学校って楽しい」と感じられる瞬間がたくさんあったなら本当に嬉しいです。そして来年も子どもたちにとって「楽しい学校」となれるよう職員一同精一杯努めてまいります。

